



所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2018年12月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス tokolabo2013@gmail.com ホームページ <http://children-foundation-tjimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozawahousyasensokuteijo>



いつも「とこらぼ」にご支援いただきありがとうございます。汚染水の処理をはじめとする福島原発の状況を省みる時、事故は7年前から収束することなく、ずっと起こり続けていると思わざるを得ません。手には負えない汚染物質は、増え続けています。放射性物質という見えにくい現実としっかり向き合う為にも、とこらぼは測定を続けていきます。1月にとこらぼは6周年を迎えます。今後とも協力よろしくお祈いします。



<放射線測定士のつぶやき>

東京電力福島第一原発事故から7年が経過しました。原発事故後の処理はいつ終わるのか見通しは立っていません。

「とこらぼ」で食品・土壌の放射線量測定を始めてから6年目になりました。子どもたちの生活する場に存在する放射性物質を可視化し、少しでも子どもへのリスクを減らせることを願って測定を続けています。

測定して分かることは、東日本では今でも土壌に放射性物質が含まれていることです。道路脇など雨水の集まるところで高濃度な値が検出されます。関東産の食品からも主にセシウム137が検出することがまだあります(国の基準値以下で)。残念ながら身の回りには、まだ放射性物質が存在しています。

最近気になっている事を2つ紹介させていただきます。

◎国連の特別報告者「福島への子どもの帰還見合わせを求める」◎

国連の人権理事会が任命したトゥンジャク特別報告者は、10月25日の国連総会の委員会で、東京電力福島第一原子力発電所の事故のあと、日本政府が避難指示を解除する基準の1つを年間の被ばく量20mSv(ミリシーベルト)／年以下にしていることについて「去年、人権理事会が勧告した1mSv／年以下という基準を考慮していない」と発表しました。

これに対し、日本政府の原子力被災者生活支援チームは、この基準は専門家で作るICRP(国際放射線防護委員会)が2007年に出した勧告をもとにしており、避難指示の解除にあたっては国内の専門家と協議して適切に行っているとして、「こうした報告が風評被害などの否定的な影響をもたらすことを懸念する」と発言しました。

この中で政府の原子力被災者生活支援チームは「緊急時被ばく」と「現存被ばく」を混同しています。

「緊急時被ばく」については「避難の緊急時の目安」として「20~100mSv／年」ですが、避難解除の基準に用いるのは、「現存被ばく」の「1~20mSv／年」のため、政府の原子力被災者生活支援チームが適切に行っていると言う「そのうちもっとも低い20mSv／年以下」とは「緊急時被ばく」のことです。避難解除の基準「現存被ばく」では「1mSv／年以下」が適切です。

詳細は(おしどりマコ・ケンの情報発信サイト)(新井信介「京の風」きれい気持ち良い美味しい)

◎映画「大地を受け継ぐ」より~原発事故に親父殺された須賀川の農家。 汚染は風評じゃない、実害だ~◎

先祖代々伝わる大切な土を汚された怒り、将来を悲観し自ら命を絶った親父の無念さなど、原発事故に奪い尽くされた事への怒りを描いた映画「大地を受け継ぐ」。出演している農家・樽川和也さん(41)が原発事故直後に自死した父・久志さん(当時64)の土にかけた想いを中心に、除染や賠償の不合理、農作業中の被曝リスク、原発再稼働への疑問を若者たちに語りかけています。批判は覚悟での訴え、「汚染は風評じゃない。現実だ。福島産を買いたくないのは当然の心情」。現実から目を逸らし「風評」という言葉で被害を覆い隠そうとする風潮のあるなか、観て欲しい作品です。詳細は(民の声新聞)

● 10月20日「福島生きものの記録」連続上映会を終えて●

東京電力福島第一原発事故の放射性物質にさらされた生物の生態系に何が起きているかを追跡した、岩崎雅典監督のドキュメンタリー映画「福島 生きものの記録」シリーズ2～5の計四本を一挙公開しました。

これまでも、放射線の生態系への影響を伝えようと、シリーズのナンバー順にこの映画を上映してきました。今年1月のとらぼ祭りではシリーズ5の上映と同時に岩崎監督をお招きしてのお話し会を催し、シリーズ6の完成を心待ちにしていました。ところが監督が病気のため入退院を繰り返し、新作「シリーズ6」の撮影に取りかかれていないことを知り、応援のため今回一挙上映に踏み切りました。

参加者は、シニア世代が多いものの、若いカップルや親子づれ、市外からの方もいました。嬉しいことに小学生にも見てもらえました。一回見た人が良かったからと続けてみてくださいだったり、中には全編一日通して見て行かれた方や、「全部見たいけど予定があるので残念、また上映会をやって欲しい」と言う方もいました。

参加者の感想

・動物たちはそこにある木の実や葉っぱを食べてるから、人間よりも放射線の影響を受けやすいんだ、危ないのは人間だけじゃなかったんだ。

(小学生)

・何も知らずに高線量のところに住み、何も知らずに汚染されたエサを食べている生きものたちの姿に胸が痛みます。時間の経過と共に原発事故の影響についての意識が薄らいでしまう中、何度でも観ておきたい映画でした。

・猿の糞をはじめ、野生動物の被ばく線量の高さに驚きました。分かっていない被ばくの影響、今後どうなっていくのか心配です。現状を少しでも知ることが大切だと思いました。

・危険な地域に研究者の方々が足を運んで調査してくれているからこそ、私たちは現状をこうして知ることが出来ました。今をまず知らなければこの先のことを考え行動することもできません。今回とらぼさんで上映していただけたこと感謝します。「人体実験されているようだ」との研究者の言葉が心に残りました。

・地道に継続調査している人がたくさんいる事が解りました。「放射線管理区域に暮らしているんです」と話されているのがショックでした。



● 公開測定ってどんなことやるの？●

毎月一回の公開測定は、「誰でも参加できます」と呼びかけていますので、いつも測定士含め数人が集まって楽しく測定しています。

検体はみんなで相談して決めています。旬の食材で気になるものや、まだ測ったことのない食材や、他の測定室で話題になっているものや意見を出し合います。この間はとらぼのフェイスブックに「那須牛乳」のリクエストをいただき、関心を持ってくださっていることがとても嬉しいです。

10月は茨城のレンコンでした。ドロなどの汚れに放射性物質が付着しやすいことから、良く洗ってピーラーで皮をむきます。皮に一番栄養があるので使いたいところですが、皮を使うことのリスクを考えここではむくことにしています。玄米で検出していても白米にすると不検出になることなどの経験からです。

そして、容器に詰めやすいように縦半分にしてから薄くスライスしました。購入した食材を1リットルの測定容器に詰めるためには、包丁とまな板、ピーラー、フードプロセッサなどを使っての加工作業が必要となる場合があります。常連参加のTさんとYさんはいつも包丁とまな板持参で食材の加工など手際よくやってくれます。1kgのレンコンスライスは大変なので人海戦術が有り難いです。

小豆川勝見先生の講演では、北関東県の産直品はまだ気を付ける必要があるとうかがいました。このように公開測定を設け、気になる食材を選定し測って確認していく事はとても意義があると思っています。皆さんも気になる食材に関心を持ち公開測定へリクエストしてください。

【とらぼ利用者の声】

いつもとらぼの測定結果に関心を持ってくださり、測定依頼や測定リクエストなどもしてくださっている

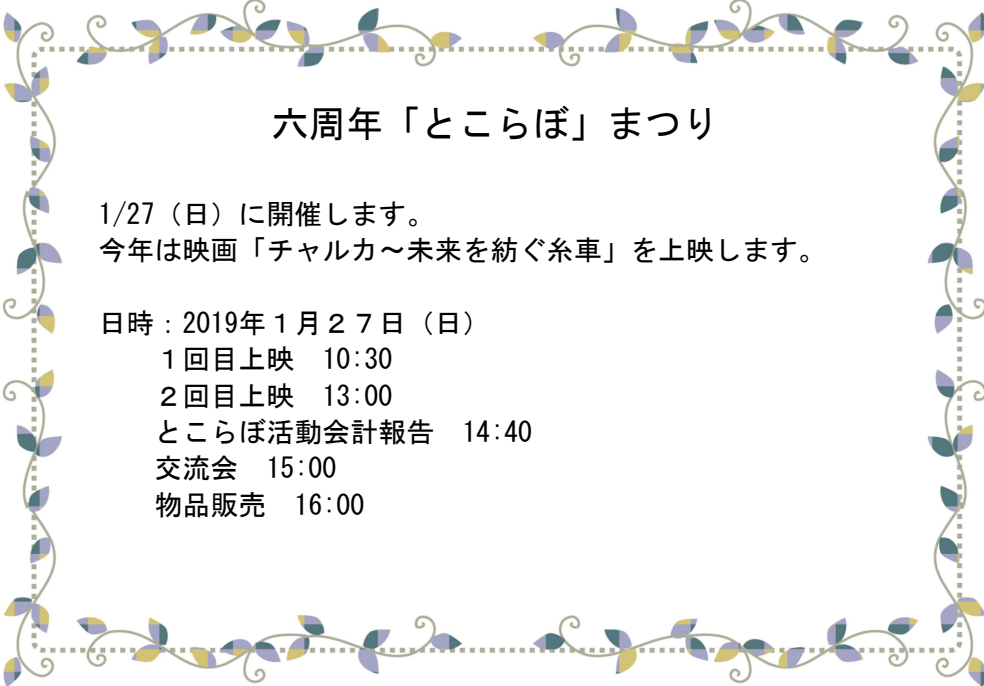


丸橋ユキさん(狭山市)からの投稿をお届けします。

私がとらぼに持ち込み測定を依頼したのは数えるほどしかありませんが、ほかの方からの依頼や公開測定で出された結果は、いつも参考にさせてもらっています。各地の市民測定所や農水省、生協等からの情報でも食品の汚染状況を確認していますが、自分の暮らす地域の測定所は、生活環境の汚染を知る目安にもなり、特に関心を持って見るすることができます。

どれだけの数字が出たらアウト、という見方はしていません。継続してデータを見て傾向をつかむことで、気をつけた方がよさそうな食品、農産物のあたりをつけています。

この「あたりをつける」ということを「風評被害」と呼ぶ向きもありますが、原発事故から月日が経ち汚染の記憶が薄れていく中で、放射能について話題に出すこと、警戒していることを表に出すことは、意義のあることだと思っています。「黙っているけど実は私も気にしているんだ」という人に、何人も会ってきました。そして、数字は嘘をつきません。とらぼの活動はもちろん、存在自体にも意味があると思っています。



六周年「とらぼ」まつり

1/27(日)に開催します。

今年は映画「チャルカ～未来を紡ぐ糸車」を上映します。

日時：2019年1月27日(日)

1回目上映 10:30

2回目上映 13:00

とらぼ活動会計報告 14:40

交流会 15:00

物品販売 16:00



◎「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています。

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー

ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール：tokolabo2013@gmail.com

電話：080-6257-2306